

式 辞

医王の峰の残雪も わずかとなり、野山の草花にも 新しい春の息吹を感ずることができるようになりました。

本日、ここに、ご来賓、保護者の皆様方のご臨席を賜り、遊学館高等学校、平成二十七年 度 入学式を 盛大に挙行できますことを、心より厚く御礼申し上げます。

さて、**四四六**名の新入生の皆さん、「入学おめでとうございます」遊学生のコットーは、常に「感謝の気持ち」を忘れず、誰に対しても「さわやかな挨拶」が行えることです。

皆さんも今日より晴れて「遊学生」の一員となりました。これからも、皆さんをこれまで 支えてこられた方への ご恩に対し、常に「感謝の気持ち」を忘れず、自ら進んで さわやかな挨拶ができる、

「真の遊学生」として 希望に満ちた高校生活を歩み出していってください。入学に際し、私から、皆さんに二つのことをお願いしておきます。

一つ目は、「徳を積む」ということです。徳とは道徳の徳のことです。

後ほど、皆さんに披露されますが、本校の校歌は一番から三番まであります。そして、そのそれぞれの歌詞の中に「徳」という言葉あるいは概念が出てきます。

一番目は、「徳の礎あればこそ」の部分です。

二番目は、「桃李言わねど おのずから 下溪成す」の部分です。

(この部分は、少し難しいので解説しますと・・・)

これは、司馬遷によつて編纂された「史記」にある言葉に由来するもので、「桃や、すももは 何も言わないが、果実がおいしいので 人が集まり、その下には自然に道ができる。つまり、口数は少なくとも 徳のある人のもとにも、自然と人が慕い、集まる」ということのたとえです。

そして、三番目は、「智徳を磨き、体を練り」の部分です。

徳とは、「まずは互いに許し 認め合うことであり、

自分が嫌だと思ふことは、他人に対しても行わないこと」を意味しています。これが、集団生活をする上で あるいは人生を歩む上で、何よりも大切なことではないかと考えています。

皆さんは、これから折に触れ、何度も本校の校歌を歌うことになります。

そのときは、この「徳」ということをしっかりと意識をして、

大きな声で元気に歌ってほしいと思います。

二つ目は、「夢や希望を持つ」ということです。

私自身、高校生活は基本、楽しくなければならぬと考えています。

しかし、単に、楽しいだけでも、本当の充実感や満足感は生まれてこないのも事実です。

皆さんには、ぜひ、高校卒業後の夢や希望を持つてほしいと思っています。夢や希望の実現は、その内容が高ければ高いほど、困難が伴うかも知れません。

しかし、それを達成できたときには、大きな充実感・満足感とともに、人間的にも大きく成長していることと思います。

今年のNHKの大河ドラマでは、吉田松陰の妹「文」の生涯を描いた「花燃ゆ」が放映されております。

幕末の志士たちに大きな影響を与えた、その松陰先生の言葉を一つ紹介いたします、

「夢なき者に理想なし、理想なき者に計画なし、
計画なき者に実行なし、実行なき者に成功なし。

故に、夢なき者に成功なし。」

夢を持たない人には、決して成功は訪れません。

人生で一度しかない高校生活、ぜひ、大きな夢や希望を持ち、その実現のため、本校での三年間で、若い力を思う存分に発揮してください。

(中略)

それでは、新入生諸君が 遊学生としての誇りを持ち、明るく学校生活を
送り、そして三年後には、大きく成長し、胸を張って卒業してくれることを
願ひ、入学式の式辞といたします。